

議で実施していないプロジェクトも大切にすべきです。
海外旅行に行くエアコンが効きすぎています。

「Think Globally, Act Locally」という言葉がありますが、そういったことをやめさせるような行動に関わることも一つではないでしょうか。「Global」な活動に関わることも「Local」を考えるきっかけにもなるかもしれません。
堀池 九州に視察に行つて、長野と環境問題に取り組む土壌が違ふのを感じました。九州は公害問題が前提だが、長野は美しい自然環境が前提です。

高島 他の地域と比べて長野はよい自然環境に恵まれています。住んでいると当たり前になっていきます。広がりを持たせるためには、比較してみても長野の自画像を描けるようなことも「アジェンダ」見直しには必要だと思えます。
また、市民活動には限界があります。事業者には営利活動の自由があります。そこに触れないようにしたいです。

事業者との関係

高島 柄澤さん、事業者との関係については、今後どのようなのが理想とお考えですか。
柄澤 企業や市内の環境団体は、当時と比べすっかり環境問題に取り組んでいるところが増えていいます。そういう意味で、緩やかな連

うにしている進まないこともあるので、規制も考えていく必要があるかもしれません。
堀池 規制も、上から落とすやり方ではだめで、市民から上がった規制である必要がありますね。

高島 「アジェンダ」の実行されているプロジェクトは尊重すべきですが、穴ぼこだらけの「アジェンダ」ではなく課題抽出が必要で、地域社会への落とし込み方について、「アジェンダ」に今後10年間で研究検討することでもよいので盛り込んではどうでしょうか。単なる啓蒙ではなく実行的なもの

合体がいいのではないのでしょうか。P会議が中心となったり、それ以外の団体が中心となったり、事業単位で連合していければいいと思います。

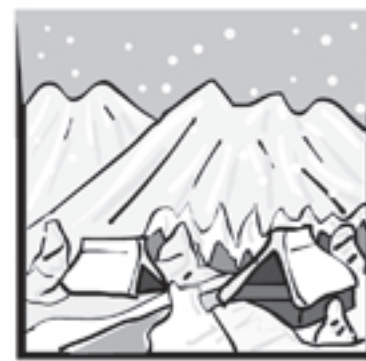
「つなぐ」役割を

高木 「できることから始めよう」という時代は終わった。P会議も自分でできることだけ行つてはだめで、「つなぐ」とか「連合体」というキーワードが出てきました。環境に関心のある人だけに関わつてはだめで、環境に関心はなくても川が好きなどという人たちも巻き込んでいく組織を目指していかなければならないという方向性も見えてきました。

金井 企業も環境がキーワードになってきています。効率だけでなく、環境にやさしい製品を作るところが生き残る時代です。市民も、環境への関心が高くなっています。企業に市民の声を届けるような連携も必要です。

高木 企業にとって単なるCSRの一環ではなく、モノづくりにプラスになるようなP会議への参画ができるようになると思います。環境のよい長野市に住みたいと思う若い人が増え、また環境を意識したモノづくりを進める元気のよい企業が、その人たちに雇用機会を提供するような好循環を作り出せるようになれば、行政にとっても良いことになります。P会議はそれをつなげていく役割までできるかもしれませんね。
本日はお忙しいところありがとうございました。

文責：弓場法理事



つなぐ・つながる

このコーナーでは、長野市内で環境活動をしている団体、施設を紹介します。

「テレビ局とNPOの二人三脚」

NPO法人飯綱高原よつこらしょ

山室秀俊

飯綱山麓の地域資源を活かした活動で地域を元気にしようという立ち上がった「飯綱高原よつこらしょ」も今年で6年目です。設立当初から柱に据えていた遊休農地を借りての食農体験イベントも年を追うごとに参加者が増えて、多くの人が満足を得ています。

今、私たちのメイン事業となっているのが、テレビ信州との協働事業。3年前からテレビ局が展開している「伝えよう！里山ものがたり」というキャンペーンの中で、「親子米作り大作戦」と銘打って、視聴者ファミリーと一緒にお米を育てる活動をサポートしています。田植えや稲刈りばかりでなく、草とりなど農家のみなさんが普段苦勞されている作業や、田の神に感謝する「かかしあげ」



の儀式、「餅つきやしめ縄づくり」といった日本ならではの年中行事を体験してもらっています。テレビ局とのパートナーシップの効果はなんといいっても、体験の内容や参加者の反応を「番組」を通じて伝えることで、「食」や「農」の大切さを多くの視聴者と共有することができると。それが「ゆうがた」の視聴率の高さがその証でもあります。同じ目的に向かって企業とNPO

が二人三脚で活動する事例はまだ少ない状況です。でも社会の課題を解決するためにこうした実践が大きな成果を上げるのを実感があります。その意味でモデルとなる活動に成長していけるようにこれからも頑張りたいと思います。テレビ信州ホームページ「親子米作り大作戦」
<http://www.tsb.jp/get/kome/2011/index.html>

パートナーシップ会議活動記録 (9~12月)

- 信州大学地域環境演習発表会 9/29
- 環境保全に取り組む市民大集合 10/6
- 学習会 講師 高木副代表 11/29
- 新アジェンダ紙上討論会 12/26
- 新アジェンダ策定プロジェクトチーム会 3回
- 理事会 4回 (9/20、10/26、11/22、12/20)

プロジェクトチーム

- | | |
|-----|---|
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> 生ごみチーム 3回 (講座他) 食品トレイ・レジ袋チーム 4回 水チーム 3回 (駒ヶ根へ先進地視察他) 市民の森づくりチーム 3回 (森林講座他) 太陽チーム 3回 |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> 水チーム 1回 市民の森づくりチーム 6回 (森林整美、秋の里山散策他) 食品トレイ・レジ袋チーム 2回 (10/15レジ袋有料化キャンペーンに参加他) 生ごみチーム 1回 |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> 水チーム 3回 生ごみチーム 3回 (先進地視察他) 食品トレイ・レジ袋チーム 1回 市民の森づくりチーム 2回 (市民の森整備他) |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> 水チーム 1回 生ごみチーム 1回 食品トレイ・レジ袋チーム 2回 (マイバッグ持参推進県民大会へ参加他) |

《発行》
ながの環境パートナーシップ会議
市民、事業者、行政の協働
(パートナーシップ)により
環境保全に取り組んでいます。
《編集》
事務局
〒380-8512
長野市大字輪賀緑町1613
長野市環境政策課内
TEL 026-224-5034
FAX 026-224-5108
E-mail:kankyo@city.nagano.lg.jp
URL <http://nagano-ep.net/>

お知らせ
ながの環境団体大集合2013
日時：2月17日(日)
13時~16時30分
場所：長野市生涯学習センター
(トイゴ4階)
基調講演 飯田哲也氏
地域自立のエネルギー革命へ
~それでも脱原発・
エネルギーシフトは進む~
*参加：無料
(問)事務局まで